

研究の概要（案）

1 研究主題

「運動の楽しさや喜びを味わい、主体的・協働的な学びを創造する体育学習の在り方」
～児童の学びの過程と一人一人のめあての工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 体育科における課題

現代社会は、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ、社会のあらゆる領域の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であるといわれている。このように新しい価値観があふれ、世界のグローバル化や情報化が急激に加速する社会において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を改めてとらえ直し、しっかりと発揮できるよう求められている。そのためには、児童が自らの知識・技能を生かし、新しい知識・技能を習得するとともに、他者と協働して課題を解決し、新たなものを創造し、主体的に学んでいくことが重要である。近年、児童を取り巻く生活様式や環境が大きく変化し、体力の低下や健康の問題がある。また、積極的に運動する子としない子の二極化や運動への関わり方にも課題があり、その影響を大きく受けている。そのため、体力や運動能力、運動への関心の個人差の拡大が見られる。そこで、学校体育を通して児童が運動の楽しさや喜びを味わえるようにし、一人一人の運動に対する意欲付けや運動習慣の形成、体力の向上などが必要である。

学習指導要領においては、体育科の目標として、「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」と記されている。また、「仙台市健やかな体の育成プラン」では、3つの視点「健康に関する児童・教員・保護者等の意識の向上」「健康や体力向上に向けた効果的な取組の実践」「健康づくりを推進する体制の構築」が示されている。さらに、次期学習指導要領の改訂に向けて、体育科で育成を目指す「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力について主体的・協働的な学習過程を工夫し、充実を図ることが求められている。仙台市の現状と課題として、運動能力面では体の移動を伴う運動に低下傾向が見られる。また、体育に対しては「体育の授業が楽しい」と感じている児童が近年上昇してきているが高い数値とは言えない。

このようなことから、児童一人一人が運動の楽しさや喜びを味わい、もっとやってみようという運動のめあてを持って運動に取り組んだり、仲間と課題を解決したりして、運動する楽しさを追究していく資質や能力の育成が求められている。加えて、運動の楽しさを追究していく過程において、一層の体力の向上を図ることも大切である。そのためにも、児童一人一人が運動のめあてを明確に持てる学習過程や指導方法、指導体制を工夫した体育学習の実践と運動の日常化を図るための環境整備が重要であると考えられる。

(2) これまでの研究から

本研究会では、昨年度まで研究主題を「自ら学び、運動の楽しさや喜びを味わえる体育学習を求めて」と設定し、授業実践を重ねてきた。7つの地区がそれぞれに研究主題に迫るために、「課題解決に取り組ませる中で運動の楽しさや喜びを味わわせるための学習過程の工夫」という視点で研究を深めてきた。教材（運動）との出会わせ方を工夫し、児童にやってみようと思う気持ちを高め、児童がめあてを持たせて取り組ませる様々な手立てがあることが明らかになってきた。また、児童がめあてを達成するために自ら工夫して運動していく姿（自ら学ぶ姿＝自立した姿）を引き出すために、運動への出会わせ方、めあての持たせ方について、教師の意図的な働き掛けと児童の学びの関係性についても発達段階や運動領域に合わせて整理することができた。

・これまでの研究で見えてきた主な課題

- 児童一人一人のめあてと学習過程の在り方
- 体育学習における運動量の確保の仕方（システマチックな授業の展開）
- 運動したくなる児童の運動環境の充実（体育の日常化）

(3) 次期学習指導要領の改訂の具体的な方向性（初等教育資料2017年3月号抜粋）

- ・課題を踏まえた体育科の目標の在り方
運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を育成することを目標として示す。
- ・学習・指導の改善充実や教育環境の充実等
体育科における資質・能力を育成するための学びの過程は、運動や健康についての課題や子供の実態等により様々であるが、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの学習・指導の改善・充実の視点に基づく。

3 研究の目標

学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童一人一人の持つめあてや学びの過程の工夫を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、主体的・協働的な学びを創造できる体育学習の在り方を探る。

4 研究主題のとらえ方

○「運動の楽しさや喜び」を味わっている姿とは

運動の特性に触れ、わかったり、できたりする運動を通して、進んで何度も運動やその活動に取り組んでいる姿である。

○「主体的・協働的に学んでいる」姿とは

教師の指導により、児童一人一人またはグループが自己の能力等に応じためあて（課題）を選択・決定している。自己決定しためあて（課題）の解決・達成に向けて、解決・達成するための活動を選択・決定し、そのめあて（課題）の解決に向けて、仲間と協力して運動に取り組んでいる姿である。

5 研究の視点

【視点①】

児童一人一人の能力に応じためあて（課題）を解決・達成できる学習過程の工夫

児童の学びを以下のように位置付けて、児童の持つめあて（課題）を発達段階や運動領域に応じて学習過程にどのように位置付けていくか検証する。

児童の学び①：児童の「今持っている力」や「高まった力」で運動と出合う段階。

児童の学び②：自己の能力に応じためあて（課題）を解決・達成する段階。

児童の学び③：活動を振り返り新たなめあて（課題）を設定する段階。

○児童一人一人の能力に応じためあて（課題）を解決・達成できる学習過程とは

児童の学び①～③が単元を通して発展的に繰り返されていく一連の学習活動である。

【児童の学び①】
教材（運動）や新たな動きに出合い、楽しく運動し、自ら関心やめあてを持つ。



【児童の学び②】
めあてを解決・達成するために工夫して運動し、技能を習得し、気づき、考え、関連付けて取り組む。

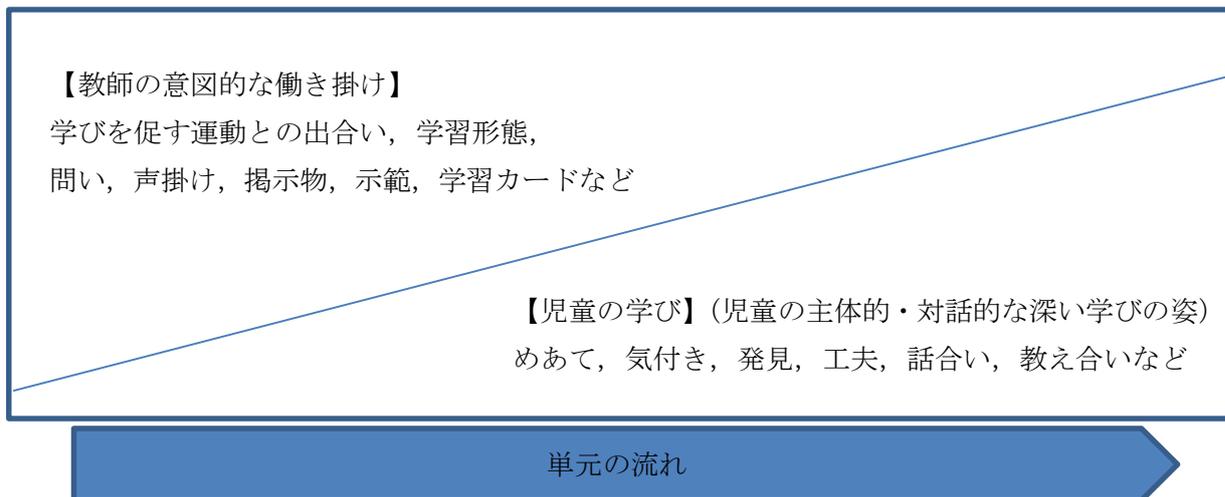


【児童の学び③】
振り返り、また新たなめあてに向けて学びを繰り返す、運動を通してわかったり、できたりする。

単元の流れ【児童の学び】

運動の特性や児童の実態に応じて、【教師の意図的な働き掛け】と【児童の学び】のバランスについては、児童一人一人が持つめあて（課題）と次期学習指導要領の「児童の主体的・対話的で深い学び」に関連させて学習過程を組み立てる。あわせて、運動の態度・情意面にも注目し、運動における心と体の関係性を児童に気付かせるなどして運動と保健学習との関連についても深められるようにしたい。

（単元における教師の働き掛けと児童の学びのバランス）



【視点②】

**児童一人一人が自己の能力に応じて自己選択・設定・決定できる
めあて（課題）の工夫（学習カード）**

児童にとって最適なめあて（課題）を持つことができたとき，最も意欲的に活動することができる。具体的なめあて（課題）を教師が例示し，その中から児童が選べるような指導の工夫を考えていきたい。また，めあて（課題）の提示だけでなくめあて（課題）の解決・達成に向けて児童一人一人がめあて（課題）を解決・達成するためには，何を解決する必要があるのか理解できるようにする。めあて（課題）を解決・達成するための方法と理解した上で，自己の活動の場を決定できるようにする。

めあて（課題）の自己選択・設定・決定 = 解決に向けた活動の選択・決定

めあて（課題）の設定を明確にすることで児童の内発的な動機付けを行う。そうした内化した部分については，学習カード等を活用して可視化し，指導と評価の一体化を図る。児童の発達段階や運動領域に応じて，めあて（課題）の自己選択・決定の在り方を明らかにしたい。

6 研究の方法

- ・地区毎の研究を主体とする。運動領域は、陸上運動に絞り込み、内容は他地区と関連させて選択し、研究の視点に沿って、授業実践や授業参観を通して研究を進める。

| | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|-------------------------------|--------------------------------|----------------------|----------------------------|
| 短距離・リレー 1 地区 2 地区 | 走・跳の運動遊び 「くねくね走」 「ジグザグ走」 | 走・跳の運動 「かけっこ・リレー」 | 陸上運動 「短距離走・リレー」 |
| ハードル走 3 地区 4 地区 5 地区 | 走・跳の運動遊び 「ハードルリレー」 | 走・跳の運動 「小型ハードル走」 | 陸上運動 「ハードル走」 |
| 走り幅跳び 6 地区 | 走・跳の運動遊び 「幅跳び遊び」 | 走・跳の運動 「走り幅跳び」 | 陸上運動 「走り幅跳び」 (2 種競技) |
| 走り高跳び 7 地区 | 走・跳の運動遊び 「高跳び遊び」 | 走・跳の運動 「走り高跳び」 | 陸上運動 「走り高跳び」 |

＊ 5 月研究推進部会で協議・決定

- ・研究の成果として、研究集録に単元計画（児童一人一人の能力に応じたためあてが持てる学習過程）をまとめ、次年度につなげる。
- ・地区研究では、これまでの研究の蓄積を活用し、次期学習指導要領の改訂を踏まえ、研究主題に迫る。
- ・6月の教科研究会では、地区毎に昨年度の研究の成果と課題を踏まえ、今年度の研究の方向性を決定する。
- ・10月の教科研究会では、授業研究を行い、事後検討会を通して、各地区の研究を深める。
- ・2月の教科研究会では、研究集録と全地区の授業実践記録動画を基に成果と課題（児童の学ぶ姿）について情報交換会（出店方式）を行い、次年度の研究に生かす。

＊ 7 月の拡大研究推進部会で検討する。

- ・夏休み等を活用し、多様な研修会（実技研修、模擬授業、先輩の授業に学ぶなど）を行い、教師の指導力向上に努める。地区内での積極的な参加を呼びかけると共に、地区を越えた参加も可能になるよう、7月の研究推進部会で共有化を図る。
- ・日常の体育学習の充実を図るため、ホームページ等を積極的に活用し、研究内容についての情報の共有化を進めると共に積極的な情報発信に努める。また、これまで作成してきた研究集録・実践記録集のねらいを確認し、より分かりやすくするための工夫について検討し、内容の精選を図る。
 - ① 研究集録では、各地区の学習過程のページや学習カードの児童の姿を掲載し充実させる。
 - ② 実践記録集では、研究の視点にできるだけ沿った共通の枠組みだけでなく、個人の研究の成果も掲載できるようにする。

7 研究実践計画

| 期 日 | 研 究 内 容 | 会 議 名 | 会 場 |
|-----------|--|-------------------------------|--------|
| 5月15日(月) | 平成29年度の研究の概要 運動領域の設定について | 研究推進部会① | 教育センター |
| 5月25日(木) | 平成29年度事業計画(研究の概要) | 常任委員会① | 教育センター |
| 6月14日(水) | 平成29年度事業計画(研究の概要) 地区研究の方向性 | 教科全体会① | 市陸上競技場 |
| 6月～10月 | 実態把握・教材研究・授業実践・実技 研修等 | 地区体育主任者会 | 各会場 |
| 7月21日(金) | ①研究主題に迫るための各地区の手立 てについて ②研究集録について ③指導案雛形について ④各地区の研修会について | 研究推進部会② (地区長・研究副班長も参 加) | 広瀬小学校 |
| 7月26日(水) | 教育課程研究協議会 *次期指導要領について | 教育課程研究協議会 | 教育センター |
| 10月 4日(水) | ①10月25日(水)の教科全体会の 計画確認と情報交換 ・領域, 手立て, 授業者, 会場, 日 程, 指導助言者, 講評など ・地区研究の状況報告, 話合い ※各地区研究推進班長は, 9月22 日(金)までに研究推進副部長(斎 藤先生・宮城野小)へC4THで報告 ②研究集録・実践記録集の編集方針・ 形式, ページわりなど ③情報交換 | 研究推進部会③ | 広瀬小学校 |
| 10月25日(水) | 授業研究・授業検討会等 | 教科全体会② | 各会場 |
| 11月 1日(月) | 研究のまとめ方について | 常任委員会② | |
| 12月 1日(金) | ①1月31日(水)の教科全体会の計 画 確認と情報交換 ※今年度の発表は, 全地区 ②係分担について ③研究集録について ※研究集録原稿締切日 →12月15日(金) ④実践記録集の編集方法等の確認 ⑤情報交換 | 研究推進部会④ | 広瀬小学校 |
| 1月 日() | 教科研究会③(研究発表会)の確認 | 常任委員会③ | 教育センター |
| 1月 日() | 「実践記録集」編集 | 「実践記録集」編集会議 | 広瀬小学校 |
| 1月31日(水) | 研究報告会(全地区) | 教科研究会③ | 教育センター |